

赤澤宏樹主任研究員



コロナ禍で公園に行く人が増えていきます。カフェができたり、イベントが多く催されたりして、公園に行く楽しみも多様になってきました。新しく開発された所のできる公園もあります。「元は〇〇だった」公園もあります。元は里山だった、河原だった、庭園だったという公園は、多くの方にとってイメージしやすいかもしれません。ですが、世界には公園のイメージとはほど遠い「〇〇だった公園」があります。

米国ワシントン州シアトル市にあるガスワークスパークは、

ひとはく 研究員 だより

元は工場だった公園です。1906年から続いた石炭ガスプラントを、全て壊さずにシアトルの大切な歴史の一つとして残し、雄大な緑地と一体として整備しています。環境面からみると負の遺産とも捉えられる工場を、まちの記憶として残し、未来に継承しているのです。

同じくシアトル市にあるフリーウェイパークは、インターステートハイウエー（州間高速道路）である「I-5」の上に76年につくられました。車社会の米国ではハイウエーがまちを分断することが多く、人の生活や生物の生息環境に大きな影響を



与えています。世界初の高速道路上の公園であるフリーウェイパークは、屋上緑化や壁面緑化が普及している現在でも特筆に値するほど、そこにいと豊富道路の上とは全く分らない豊かな自然環境が育っています。

ニューヨークのハイラインは、元は港湾と精肉工場地区を結ぶ鉄道の高架でした。使われなくなつてさび、雑草で覆われ

ていた線路の高架を、地区の歴史として保存する運動が起こり、文化景観（カルチュラル・ランドスケープ）の専門家のデザインが公園整備コンペで選ばれました。全区画は三つに分かれていて、開園した順に元の高架を美しくリ・デザインした区画、精肉工場から再開発によつて変化するニューヨークのまちを眺める区画、さびた線路と雑

草をそのままにしている区画があります。

- ① 廃工場と自然の対比が美しいガスワークスパーク
- ② 高速道路を緑が覆うフリーウェイパーク
- ③ ハイライン（ニューヨーク）の保全エリア



公園はまちの自然として、ただ緑が多いだけでなく、そのまちらしさを感じられる場所であることが望ましいです。私の専門である造園学は、土地を介して人の暮らしと文化、環境、生物をつなげる学問です。人口減少が進む中で、いろいろな場所が変化していきますが、うまく人と自然が調和し未来に継承されることを目指します。

工場や高速道路残しつつ

〇〇だった公園